平成28年2月

第125号

スクランブル

編集委員：青少年対策大井第二地区委員会
山中小学校ＰＴＡ・大井第一小学校ＰＴＡ
伊藤学園ＰＴＡ・各学校ＯＢ＆ＯＧ

編集・発行：大井第二地区スクランブル編集委員会
品川区大井２−２７−２０　大井第二地域センター内
TEL（３７７２）２０００　FAX（５７０９）７６２７
URL:http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/hp/menu000007700/hpg000007613.html

１０年、１００年、１４０年！

大井地区にある区立校が、相次いで周年記念を迎えました。伝統を守り新たな歴史を築いていく、各校の校長先生にお話を伺いました。

伊藤学園

10 年後の伊藤学園はどんな学校になっていると思いますか？

10 年間でできあがってきた『規律を重んじ、課題があってもきちんとしている、揺らがない』といった伊藤学園らしさや雰囲気は変わらず受け継がれていると思います。オーケストラのベルリンフィルでも、メンバーが替わっても音色は変わらないように。

10 年後の羽鳥校長の夢を教えて下さい。

音楽に関わる時間を増やしていたい。特に好きな合唱をやりたいです。

伊藤中学校があった場所に開校した伊藤学園は、今年 10 周年を迎え、6月には記念式典が予定されています。

施設一体型小中一貫校である伊藤学園では、1年生から9年生までひとつの校舎で学んでいて、新入学の1年生の世話を9年生がしたり、8年生と5年生合同で移動教室へ行ったりという異学年交流が盛んです。

上級生の姿を見て下級生は育ちます。1年生から4年生を低学団、5年生から7年生を中学団、8・9年生を高学団と区分けすることで、より発達に合った活動ができるのも特長です。

市民科モデル実践校でもあり、心のブレーキキャンペーンやスクールバディの活動を通して、いじめをしない強い心を育（はぐ）み、いじめを許さない学校を目指しています。

羽鳥校長の校内お気に入りスポットは？

新幹線や富士山が見える屋上！

いつかドクターイエローが走っているところを見たいという羽鳥校長。素敵なウッドデッキで覆われた屋上からは、360°味わいの違う景色を眺めることができます。

山中小学校

田邉校長の校内お気に入りスポットは？

アリーナと校庭！

子ども達が一堂に会し、学習したり運動したりすることができる場所です。田邉先生自身、行事が大好きで、その大好きな行事が行われる場所だからお気に入りなのだそうです。

今年で開校100周年を迎える山中小学校。11月12日に、式典と祝賀会を開催することが決定しています。

地域とのかかわりが多く、劇団四季の俳優に来校してもらい発声法や歌唱指導をしていただいたり、町会掲示板やアトレ大井町で作品の展示を行ったりしています。また今年度は、造園会社の方が屋上に作ってくれたさつまいも畑で、1年生が収穫をしました。

委員会活動を改善工夫した「山中会社」という取り組みもしています。青空保健会社・山中あいさつ会社等の「会社」を作り、各会社でどんな事をするかを考え報告し、3月に成果発表を行います。

取材をさせていただき、校長先生が、山中小学校と子ども達を常に見守って下さっていることを感じました。

10 年後の山中小はどんな学校になっていると思いますか？

現在の校風を引き継ぎつつ、新しい教育活動が提案出来ているといいです。新校舎になっているといいな。

10年後の田邉校長の夢を教えて下さい。

いろんな夢の実現をしているところでしょうか。

そして、山中の 110 周年式典、祝賀会に参加していると思います。

大井第一小学校

大井第一小学校は明治8年に開校し、昨年5月15日に開校140年を迎えました。

記念児童集会は高学年でつくる代表委員会が主催し、「140 年を学ぼう」を合言葉に、各学年の児童が地域の方々から学んだ郷土の生活や歴史等について発表しました。

また、子ども達が作り上げた記念ソング「未来へはばたけ大井第一」を大合唱し、児童 761 名全員で 140 年の歴史を祝い、これからの飛躍を誓い合いました。

式典と祝賀会のためにPTA・同窓会・地域の方々で「祝う会実行員会」が結成され、学校と共同で長い期間準備にあたったとのことです。校長先生の式辞、品川区教育委員会教育長の挨拶、品川区から記念品授与、児童によるお祝いの言葉と合唱・合奏等があり、歴史の重みを感じられる輝かしい式典となりました。

記念同窓会にも、多くの卒業生の方々が集まり、140 周年をお祝いしました。

10 年後の大井第一小はどんな学校になっていると思いますか？

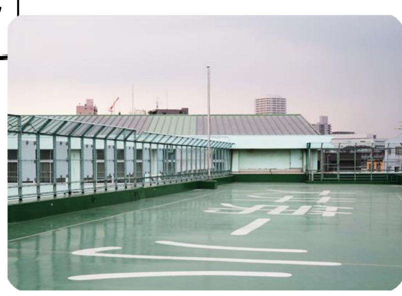
『地域とともにある学校づくり』の取り組みを続け、『地域を知る』ことだけにとどまらず、『自他の生命や生き方』、『誰かの役に立つことの大切さ』、『思いやり』なども学ぶ子ども達が育っていると信じます。いつまでも夢いっぱい笑顔いっぱいの大井第一小学校でありますように！

10 年後の木村校長は、何をなさっているでしょう？

暖かい季節は山の中で、食べるものを育てながら暮らし、寒い季節は東京で歌舞伎舞台を鑑賞して楽しみます。夏場は大好きな甲子園球児の応援に行きます。

木村校長の校内お気に入りスポットは？

自然の豊かさと科学の力の素晴らしさを感じる屋上！



高台にある校舎の屋上では、空は広くはるかに広がっています。雲の形は日々異なり、夕焼けも美しく、刻々と色合いが変化します。日が落ちると羽田空港へ着陸を待つ飛行機のヘッドライトが、まるで広い空に道があるかのように並んでいるのを見ることができます。

【齋木・志村・平林・府川・水野・柳沼・和田】

発見！まちのプロフェッショナル

日本棋院品川支部　囲碁サロン「あづま」

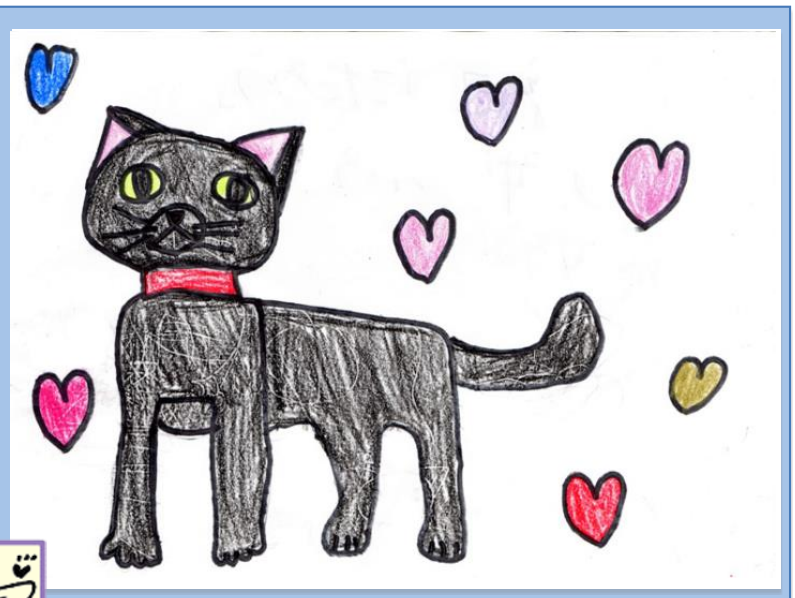
池上通りの大井本通りバス停のそば、「囲碁」の看板が目にとまります。マンションの１階に囲碁サロン「あづま」が区役所前の一角から移転してきたのは、平成26年７月。

伝統文化の囲碁は、集中力や考える力を養うものとして、最近注目されています。勝ち負けを経験することで、相手への思いやりを学ぶことができ、コミュニケーション能力や思考力の向上も期待できることから、品川区では一部の小学校で正課として導入しています。児童はすまいるスクールでも月に一度の囲碁教室で体験できますが、興味のある方は、サロンを訪れてみては。毎週水曜15時頃には小学生が集まってきて、学びや遊びのたまり場になっています。「あづま」は、老若男女が楽しめる場所です。初めての方にも、学校囲碁指導員の方々がボランティアでわかりやすく指導してくださいます。

今回お話を伺った、囲碁の普及に飛び回っている席亭代行の西沢さんの夢は、地域の方々のご理解により、品川区の全小学校で囲碁が授業化されることだそうです。実現されたら素晴らしいですね。

営業時間：年中無休12時～21時
席料：大人1000円、女性・子ども600円
お問い合わせは、Tel.03-5709-3413まで。【佐藤・相田】

イラストクランブルつぶやき



大井第一小3年　じろう
『こたろう』

ヒント

こたろうは、じろうさんの身近にいる猫ちゃんなのかな？ 可愛く描けていて、猫ちゃんへの愛情がひしひしと伝わってきますね！(^-^) 動物は、たくさん観察をして、身体の仕組みを理解するのがうまく描くコツだよ。いろいろなポーズにも挑戦してみよう！

家族で豆まき！

皆「鬼は～外！ 福は～うち！」
姉「鬼は～うちにいる！」
妹「え？ なんで？」
姉「鬼母がいるから～アハハ！」
妹「そうだね～ハハハ！」
母「コラ～！！」
父「なるほど」
母「エッ・・・」
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
子ども達も楽しみにしている節分の豆まき。いつもは厳しいお母さんも一本とられたかな？　【神田】

品川区内一斉防災訓練

やってみ隊が行く～!!

12月5日（土）区内一斉防災訓練が各所で行われ、我々は山中小学校で行われた第二地域の防災訓練を取材してきました。

この訓練は、大地震が発生し、複数の場所で避難所の運営が必要になった場合を想定しています。区内全域が被災した際に、区の災害対策本部と連携しながら、各地域において区民と区職員が協力し、避難所の開設・運営を行うことに主眼を置いているそうです。

午前10時の防災サイレンを合図に第二地域に所属する5町会から参加者が避難場所へ集まってきます。校庭に集まった人たちは避難者名簿用紙に記入後待機。

各町会の町会長や災害担当者により運営本部が開設され地域の被災情報などを集約し、避難所の運営指示を出します。

並行して、町会ごとに割り当てられている役割分担に従い、要援護者を救護センターへ誘導し、校内にある備蓄倉庫の場所や設備を確認します。また、毛布や炊き出しの食料などを持ち出して必要な場所に配付したり、お湯を沸かしてアルファ化米にて炊き出しのおにぎりを作ります。

水道が使えなくなった想定では、屋上のプールから水を下ろし、バケツにてトイレに運び使用するなどの訓練も実施されました。途中、濱野区長も参加され参加者一体の防災訓練でした。

訓練の様子を見学していた山中小5年生のみんなは、地域の方々が一体となって各分担の役割をこなしていく様子に、興味津々でメモをとっていました。

ホースを持つ濱野区長

防災は『自助』＝自分で自分を助けること、『共助』＝家族、企業や地域コミュニティで共に助けあうこと、『公助』＝行政による救助・支援です。

今回の訓練はまさに『共助』でした。自宅に備蓄品や防災グッズを備える『自助』は理解しておりましたが、今回のような防災訓練に参加して、自助・共助・公助の概念がわかると、「防災というのは、国・都道府県・市町村・町内会・企業・家族・個人それぞれが、積極的に取り組むべきもの」ということが再確認できました。

いつ発生してもおかしくない大地震。いざというときに自分は、家族はどう行動するか家庭や職場で話し合うとともに、今回のような防災訓練に参加する機会があれば、家族で参加して体験しておくことが重要ですね。

【高木・檜山・鈴木・高島・石原】